

## - 7. GMOの理解増進手法に関する調査

### Survey on GMO and Public Understanding

 <b>キーワード</b>	遺伝子組換え技術、理解増進手法、科学知、
<b>Key Word</b>	GM Technology, public understanding method, scientific knowledge

#### 1. 調査の目的

平成20年度科学技術振興調整費「遺伝子組換え技術の国民的理解に関する調査研究」(研究代表者:筑波大学鎌田博教授)に関連して、GMOの理解増進手法に関連する動向を取りまとめる。

#### 2. 調査研究成果概要

##### (1)食をめぐる関係者とコミュニケーション

GMOに限らず、食の安全、食料問題、食料自給、調理法、農業問題など、食をめぐる関係者(ステークホルダー)としては、食べる人=消費者(生活者)、作る人=生産者(農家・流通業界)、食を科学する人=研究者、そして行政(国・自治体)の4つに大別できる。これ以外に、マスコミなどのメディア関係者をあげてもよい。

何を理解するのか? GMOあるいはGM食品に限ると、そのリスク・ベネフィット、あるいは開発から生産・消費までのプロセスの正しい理解が目的としてあげられよう。

しかし、我々は、遺伝子組換えに関する「技術の理解」という側面と、食品あるいは作物としての「コストベネフィットの理解」という両方の視点からのアプローチがあることを忘れてはならない。対象となる技術が食という日常的行為にかかわるテーマであるため、専門家が消費者に向かってGMOの安全性(あるいはリスク)などを一方的に説明をすればよい、といったスタイルだけ論じきれないのが、大きな特色である。

##### (2)「科学知」に対する理解のプロセス

一般的に、「科学知」を理解するプロセスは、対象を「知る」「理解する」「行動する」という3つのステップをへて行われる。

まずは、対象となる技術や、問題(課題)の存在を知ることから始まる。この場合は、まず、遺伝子組換え技術(GM Technology)とは、そもそもどのような技術なのか、あるいは従来の品種改良とどう違うのか、といった科学的知見に関わる知識の獲得があげられる。同時に、このような遺伝子組換え技術が、農業や食料生産の分野でどのように活用され、栽培実績はどの程度のものか、どのようなメリット(利点)があるのか、安全性などに問題はないかといったイシューへの理解が重要である。

ともすると科学者や研究者は前者、すなわち科学や技術に関する「専門知」が中心にあり、消費者の場合は、後者、すなわち社会問題や日常生活における「経験知」がベースになっている。理解増進とは、この両者の間のギャップを埋める作業に他ならない。

##### (3)理解増進のタイプ

このような「理解増進」のプロセスを、「専門的」「非専門的」、「双方向的」「一方的」という2つの軸で分類した場合、図1のようないくつかの具体的な活動にタイプ分けができる。

専門的×双方向的アプローチ

<専門家ワークショップ>

これは基本的には、限られたメンバーの参加による専門的な意見交換の場、あるいは合意形成の場である。この方式はつつこんだ議論展開が期待できる半面、メンバー構成や運営の仕方によっては、予定された結論を再確認するだけというようなケースもないわけではない。

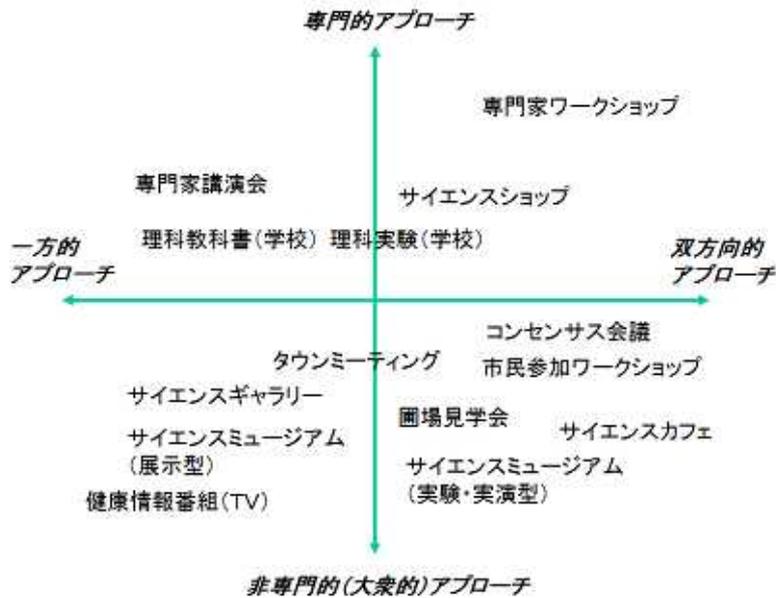


図1 理解増進活動の4つの類型

専門的×一方的アプローチ

< 専門家などによる講演会 >

もっともよく見受けられるスタイルで、その分野の専門家を招へいして、消費者(生活者)を対象にした講演を行う。ある意味、最も安易な方法ではあるが、「理解増進」にどれだけの効果があったかは、講演者の「専門性」だけでなく、「話のわかりやすさやリアリティ」、あるいは「演者の人柄」への信頼感といった要素が、聴衆の心に届く度合を決める。「座学」あるいは「お話拝聴」といった旧来型のコミュニケーションスタイルから、どの程度脱却できるかがキーポイントである。

非専門的 一方的アプローチ

< サイエンスミュージアム(展示型) >

様々の実物展示(遺伝子組換え作物)や写真パネル、ビデオ映像などを駆使して、来館者の理解と関心を高める手法であり、一般大衆の広範な理解を得るには、効果的な手法のひとつである。

非専門的×双方向的アプローチ

< サイエンスカフェ >

英国ではじまったスタイルで、カフェなどの気楽な雰囲気の中で、専門家と市民が自由に意見交換を行うもの。

< コンセンサス会議 >

1980年代にデンマークで開発された市民参加型の合意形成システムで、専門家パネルと市民パネルで構成される。市民パネルにはそのテーマについて学ぶ機会が与えられるとともに、市民パネルと専門家パネルの間で質疑応答が行われる。遺伝子組換え分野では、北海道および農林水産省がコンセンサス会議方式のイベントを実施している。

< 圃場見学会 >

消費者やメディア関係者を、GM作物圃場に来てもらい、実際の栽培現場の状況把握や、雑除草作業を体験してもらい体験型の理解増進活動を行うスタイルで農林水産省や「くらしとバイオプラザ21」などが実施している。